

クラウド時代のドキュメント作成術



あわしろいくや

ikuya@fruitsbasket.info



1 クラウド時代のドキュメント作成

それにしてもすごい時代になったものだ。手のひらに収まるサイズのデバイスがインターネットに接続し、データをその「雲」に置いたら、それまでの生活が一変するほど便利になるとは、少し前までは考えられなかった。GPSなどで自分のいる場所が特定でき、それをネットサービスにフィードバックできる便利さは他には代えがたい。

ただし、その性質上リーダーもしくはビューワーとしての使い方が主流であり、何かを「創る」には向いていない。それはそうだろう。キーボードのないデバイスで1万文字の文章を書くのは容易ではないと想像できる。

とはいえ、クラウドサービスを活用すればこれまでとは違う考え方で「創る」こともできるんじゃないか、と考えたのがこれを書くきっかけとなった。たしかに実際に試してみるとあくまでプリミティブなものではあるが、これまでとは違う体験を得られたのは事実だ。

違う体験とはどんなものであろうか。これまではクローズドなフォーマットでローカルにファイルを保存するだけだったが、データ置き場がローカルからネットワークへ、そしてインターネット（クラウド）へと変わり、フォーマットもクローズドなものからオープンなものに置き換わりつつある。そればかりではなく、Google Docsなどのサービスを利用すると、Webブラウザで直接編集できるようになってしまった。これは特に共同作業の際に優位性を発揮するが、ここでは詳しくは述べない。あくまで1つのファイルを様々なデバイスで編集し、同期を取ることに限定する。

Google Docsが非常に優れたサービスであることに疑いの余地はないが、原則としてオフラインでは保存もできないので、あくまで補助的な使い方となる。データの同期にはマルチプラットフォーム対応のDropboxも便利なので使用する。よってGoogle DocsやDropboxを使用してデータを同期するAndroid用のオフィススイートを使用することとする。

もう少し具体的には、次のようなポリシーとする。

- docx形式を利用する。表計算やプレゼンテーション機能は試さない
- ローカルに保存も許容する
- Dropboxに保存。同期は別アプリでもいいが、直接保存できるのが望ましい
- Google Docsにも保存
- 最終的にはMicrosoft OfficeあるいはLibreOfficeで修正する

docx形式にする意味は特にないが、オープンな規格なのでこれにした。意外な知見が得られたので、最後にまとめよう。

検証するオフィススイートはDocuments To Go、OfficeSuite Pro 体験版、Quickoffice Proとした。あとDropboxも必要に応じて使用している。

検証するAndroid端末はNEC LifeTouch Noteにした。キーボード付きのまさにぴったりの端末だ。最初からこの手のオフィススイートがインストールされていないのが不思議なぐらいだ。

2 3つのオフィススイートを比較する

2.1 Documents To Go

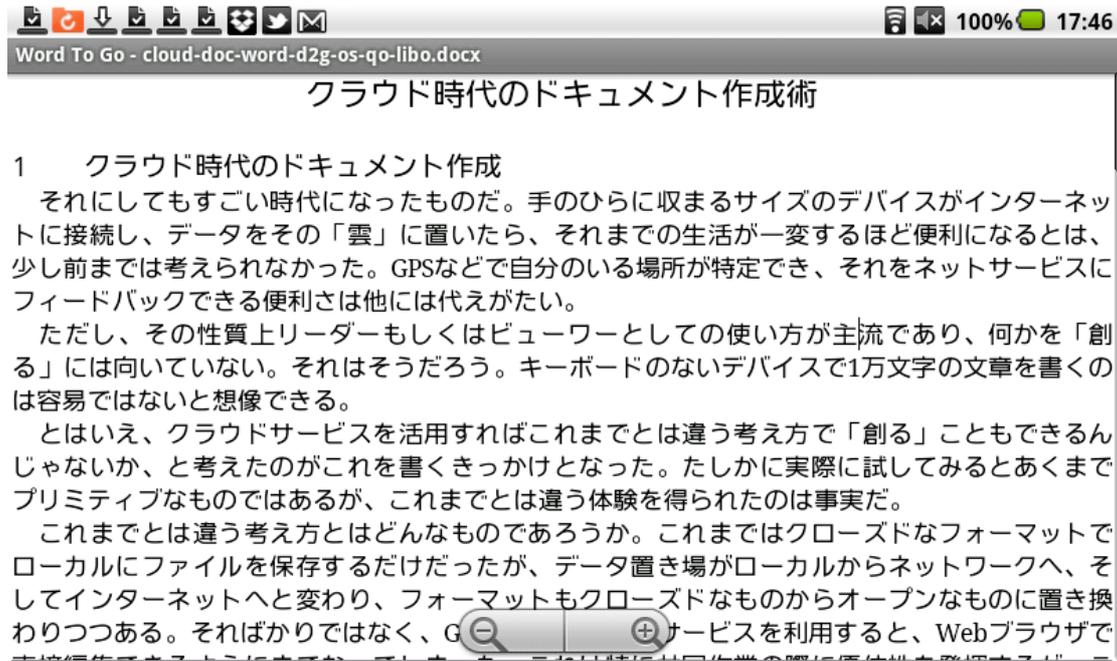
Documents To Goはワープロ・表計算・プレゼンテーションの閲覧と作成・編集のほか、PDF閲覧機能もある。ただし、PDF閲覧はAdobe Readerを使用したほうがいだろう。レジストしなければワープロ・表計算・プレゼンテーションについて閲覧機能のみ可能でありPDFは閲覧できない、レジストすると作成・編集ができるようになる。Android端末にプレインストールされていることも多く、この中では一番知名度が高いだろう。

Google Docsと同期する機能は実装されているが、Dropboxと同期する機能はない。ただし[ファイル]-[メールで送信]の送信先にDropboxを選択できる。Dropboxのアプリをインストールする必要はあるが、同じファイル名でも上書きにならないので使い勝手が良くない。

そのことに目を瞑れば完成度の高いオフィススイートといえる。もちろん Dropbox のアプリの仕様である可能性が高いので、Documents To Go で Dropbox のネイティブサポートが出来れば問題は解決しそうだ。

あと、Google Docs に docx 形式でそのままアップロードできないのも使い勝手が悪い。ファイルの作成時には doc 形式か docx 形式かを選択できるが、保存時には選択できないのも問題といえる。

ほかにはスマートフォン版と高解像度のタブレット版で同一のアプリであり、かつ Android マーケットで購入する以外にもシリアル番号を購入することもできるので、いざというときに安心感があるのはポイントが高い。



Documents To Go のスクリーンショット。再現性は一番高かった。

2.2 OfficeSuite Pro

OfficeSuite Pro も基本スペックは Documents To Go と同じく、ワープロ・表計算・プレゼンテーションの閲覧と作成・編集機能があり、PDF 閲覧機能もある。体験版は 30 日間フル機能が使えるものであり、慎重に試すことができるのはポイントが高い。

やはり Google Docs と同期する機能も搭載されており、ファイル形式は保存時に選択することができ、全体的に使い勝手もいい。基本的な機能はメニューが常時表示されており、一般的なワープロソフトのようだ。

Google Docs へのアップロードは [ファイルオプション] の [アップロード] からも行える。Dropbox へは、同じく [ファイルオプション] の [ファイルの送信] から行える。

ただし、Google Docs も Dropbox も上書きが全くできず、また docx 形式で保存するとフォントがトーフになったりなど、残念ながら日本語で使用するのには厳しいと判断せざるを得ない。doc 形式ではこれほど深刻な事にはならなかったことは明記しておく。



100% 17:46

cloud-doc-word-d2g-os-qo-libo.docx - OfficeSuite

クラウド時代のドキュメント作成術

1 クラウド時代のドキュメント作成

それにしてもすごい時代になったものだ。手のひらに収まるサイズのデバイスがインターネットに接続し、データをその「雲」に置いたら、それまでの生活が一変するほど便利になるとは、少し前までは考えられなかった。GPSなどで自分のいる場所が特定でき、それをネットサービスにフィードバックできる便利さは他には代えがたい。

ただし、その性質上リーダーもしくはビューワーとしての使い方が主流であり、何かを「創る」には向いていない。それはそうだろう。キーボードのないデバイスで1万文字の文章を書くのは容易ではないと想像できる。

とはいえ、クラウドサービスを活用すればこれまでとは違う考え方で「創る」こともできるんじゃないか、と考えたのがこれを書くきっかけとなった。たしかに実際に試してみるとあくまでプリミティブなものではあるが、これまでとは違う体験を得られたのは事実だ。

これまでとは違う考え方とはどんなものであろうか。これまでではクローズドなフォーマットでローカルにファイルを保存するだけだったが、データ置き場がローカルからネットワークへ、そしてインターネットへと変わり、フォーマットもクローズドなものからオープンなものに置き換わりつつある。そればかりではなく、Google Docsなどのサービスを利用すると、Web

ブラウザで直接編集できるようにまでなってしまった。これは特に共同作業の際に優位性を発揮するが、こ



OfficeSuite Pro のスクリーンショット。通常のワープロソフトに近い。

2.3 Quickoffice Pro

Quickoffice Pro も基本スペックは Documents To Go と同じだ。体験版と完全版（便宜上こう呼ぶ）は分かれており、かつ対応機種でしか購入できないようになっているので、LifeTouch Note で購入する際は機種を偽ることとなる。せっかくなのでいい機能を持っているのに、これは実にもったいない。

Google Docs との同期機能ばかりでなく、Dropbox との同期機能もあり、ファイルが重複するとかどうのとかという問題は全く発生しない。ただし保存するファイル形式を変更することができない、箇条書きなどのリスト機能がないなどワープロとしては低機能であるなど、手放して最高性能というものでもない。あと Google Docs にアップロードしたファイルを編集する場合は、必ず [Google ドキュメント版を作成] を実行し、直接編集できるようにしておく必要がある。

ただし、今回の用途に関してはこれがベストチョイスであるとせざるを得ないのは事実だ。機能は少ないものの、実装されている機能は問題なく動作する。これはすばらしい。ローカルのファイルは全く使わず、Dropbox や Google Docs だけで完結できるので、ファイルのアップロード忘れも防止できる。

前述のとおり、対応機種でないと買いにくい、というのが大きな問題だ。体験版と完全版が分かれているのも同じく問題で、とにかく買うという最初の一步を乗り越えるのが面倒なのが残念だ。

クラウド時代のドキュメント作成術

1. クラウド時代のドキュメント作成

それにしてもすごい時代になったものだ。手のひらに収まるサイズのデバイスがインターネットに接続し、データをその「雲」に置いたら、それまでの生活が一変するほど便利になるとは、少し前までは考えられなかった。GPSなどで自分のいる場所が特定でき、それをネットサービスにフィードバックできる便利さは他には代えがたい。

ただし、その性質上リーダーもしくはビューワーとしての使い方が主流であり、何かを「創る」には向いていない。それはそうだろう。キーボードのないデバイスで1万文字の文章を書くのは容易ではないと想像できる。

とはいえ、クラウドサービスを活用すればこれまでとは違う考え方で「創る」こともできるんじゃないか、と考えたのがこれを書ききっかけとなった。たしかに実際に試してみるとあくまでプリミティブなものではあるが、これまでとは違う体験を得られたのは事実だ。

これまでとは違う考え方とはどんなものであろうか。これまでではクローズドなフォーマットでローカルにファイルを保存するだけだったが、データ置き場がローカルからネットワークへ、そしてインターネットへと変わり、フォーマットもクローズドなものからオープンなものに置き換わりつつある。そればかりではなく、Google Docsなどのサービスを利用すると、Webブラウザで直接編集できるようにまでなってしまった。これは特に共同作業の際に優位性を発揮するが、ここでは詳しくは述べない。あくまで1つのファイルを様々なデバイスで編集し、同期を取ることに限定する。

Google Docsが非常に優れたサービスであることに疑いの余地はないが、原則としてオフラインでは保存もできないので、あくまで補助的な使い方となる。データの同期にはマルチプラットフォーム対応のDropboxも便利なので使用する。よってGoogle DocsやDropboxを使用してデータを同期するAndroid用のオフィススイートを使用することとする。

もう少し具体的には、次のようなポリシーとする。

- docx形式を利用する
- 原則としてはローカルに保存
- Dropboxにエクスポート。同期は別アプリでもいい
- Google Docsにもエクスポート
- 最終的にはMicrosoft OfficeあるいはLibreOfficeで修正する

docx形式にする意味は特にないが、オープンな規格なのでこれにした。意外な知見が得られたので、最後にまとめよう。

検証するオフィススイートはDocuments To Go、OfficeSuite Pro体験版、Quickoffice Proとした。あとDropboxも使用している。

検証するAndroid端末はNEC LifeTouch Note!にした。キーボード付きのままにびったりの端末だ。最初からこの手のオフィススイートがインストールされていないのが不思議なぐらいだ。

2. 3つのオフィススイートを比較する

1. Documents To Go

Quickofficeのリフロービュー。docx形式は直接読めなかったので odt 形式となっている

クラウド時代のドキュメント作成術

1. クラウド時代のドキュメント作成

それにしてもすごい時代になったものだ。手のひらに収まるサイズのデバイスがインターネットに接続し、データをその「雲」に置いたら、それまでの生活が一変するほど便利になるとは、少し前までは考えられなかった。GPSなどで自分のいる場所が特定でき、それをネットサービスにフィードバックできる便利さは他には代えがたい。

ただし、その性質上リーダーもしくはビューワーとしての使い方が主流であり、何かを「創る」には向いていない。それはそうだろう。キーボードのないデバイスで1万文字の文章を書くのは容易ではないと想像できる。

とはいえ、クラウドサービスを活用すればこれまでとは違う考え方で「創る」こともできるんじゃないか、と考えたのがこれを書ききっかけとなった。たしかに実際に試してみるとあくまでプリミティブなものではあるが、これまでとは違う体験を得られたのは事実だ。

これまでとは違う考え方とはどんなものであろうか。これまでではクローズドなフォーマットでローカルにファイルを保存するだけだったが、データ置き場がローカルからネットワークへ、そしてインターネットへと変わり、フォーマットもクローズドなものからオープンなものに置き換わりつつある。そればかりではなく、Google Docsなどのサービスを利用すると、Webブラウザで直接編集できるようにまでなってしまった。これは特に共同作業の際に優位性を発揮するが、ここでは詳しくは述べない。あくまで1つのファイルを様々なデバイス

Quickoffice のページビュー。残念ながら再現性は低い。

3 docx 形式の互換性

docx 形式で保存しているうちに、ちょっとしたことに気がついた。Quickoffice Pro で作成したファイルが OfficeSuite Pro で開くことができるが、Documents To Go では開くことができない、ということが起こった。これを Microsoft Word 2010 で開くと確かに壊れたファイルという表示が出て、修復する必要があった。LibreOffice 3.4.3 では特にエラーは出なかった。

Documents To Go で保存した docx 形式が Quickoffice Pro と OfficeSuite Pro で開くとエラーになったこともあった。これを Microsoft Word 2010 で開くと特に問題はなく、当然 LibreOffice 3.4.3 でも開くことができたので、これは Quickoffice Pro と OfficeSuite Pro の

問題だといえる。docx 形式の互換性は Documents To Go が一番高いということを示した結果となった。

4 結論

残念ながらベストチョイスは見当たらなかった。それぞれいくつかの問題があり、その中でどれを選択するのかということになる。ここでは Quickoffice Pro としておくが、さんざん書いたとおり購入のハードルが高い。

今回取り上げたオフィススイートはいずれも 1000 円以上で販売されており、どれも満足が行くものでなかったことを考えると、国産のオフィススイートにもチャンスがあるように思う。今後の登場に期待したい。

なお、このドキュメントは Microsoft Word 2011→Documents To Go→OfficeSuite Pro→Quickoffice Pro→LibreOffice 3.4.3 と 5 つのオフィススイートを股にかけて執筆したが、結構苦勞した。やはり使用するアプリケーションは少ないほうがいいに越したことはない。

名前	会社	使用バージョン	価格
Documents To Go	DataViz	3.003(961)	\$14.99
OfficeSuite Pro	Mobile Systems	5.1.519	\$14.99
Quickoffice Pro	Quickoffice	4.1.121	\$14.99